

児童朝会 校長の話 7月12日

今日と明日、5年生は霧ヶ峰の移動教室を予定していましたが、緊急事態宣言が出てしまって、急に行けなくなってしまいました。いろいろな準備をして楽しみにしていたのに、どんなにかショックで悔しかったことだと思います。今、代わりに9月に行けるように予定を立てています。金曜日に、5年生に延期を話しに行きましたが5年生の態度は立派でした。真剣に話を聞き、悔しさをこらえて、延期して行ける時に向けてまた準備していこうと気持ちを切り替えていました。頑張っている5年生を全校で応援していきましょう。

さて、私は先週の土曜日、人生初、車椅子バスケット用のスポーツ用車椅子に乗って体験をしました。前や後ろに進んだり、止まったり回転したり、



り、小刻みに自由自在に動けるとも楽しかったです。こんな世界



があるんだと驚きました。この写真の一番右にいる方が、神保康広さんです。車椅子バスケットボー

ルでパラリンピックに4回出場しているパラリンピアンです。神保さんからいろいろな話を伺いました。

神保さんは小学校、中学校と野球をやっていました。将来はプロ野球選手になりたいと夢を持っていたそうです。それが中学2年生の時に友達と些細なけんかをして野球部をやめてしまいました。それからは目標がなくなり、遊び歩いていました。16才の時、バイクでスピードを出しすぎて交通事故に遭いました。一瞬にして下半身が動かなくなり、自分では立ったり歩いたりできなくなってしまいました。自分が惨めに思えて、誰にも見られたくないと家に引きこもっていました。1年半ずっと家にいましたがその間、外に出ようと声をか



けてくれる友達がありました。初めは冷やかしたろうと思っていましたが、ずっと変わることなく寄り添って支えてくれたそうです。その友達がいなければ自分は何かに挑戦することなど考えられなかったと言います。そして1年半後、車椅子バスケットに出会いました。一生懸命に練習に励み、ついに日本代表としてパラリンピックに出場することができまし

た。現役の選手をやっていた27歳の時、もっと勉強がしたいと思い、アメリカに旅立ちました。「勉強がしたい」なんて思ったのは人生で初めてだったそうです。車椅子バスケットのことや障がい者スポーツについて勉強したり研究したり学びたいと思い、お金もない、英語も話せない、不安はいっぱいありましたが思いきって渡ってみました。すると楽しいことがいっぱい待っていたそうです。その中で、その後の人生を大きく変える体験をしました。

神保さんは仲間たちと水上スキーの練習をしていました。

水上スキーというのは、スキーをはいて水の上に立ち、ボートで引っ張ってもらって水上を走ります。そこに同じように足に障害を負った子供が「自分も水上スキーをやりたい」とやっ



てきたそうです。子供は危険だし絶対無理だと思ったそうです。するとスタッフが「いいよ。全力でサポートするよ。」と言ったそうです。そして倒れないように手作りで水上スキーの横に羽を付けました。そして練習すること2時間。挑戦してみたら1回も転ぶことなく、その子供は水上スキーができたそうです。神保さんは驚いて、自分はできないと決めつけていた。けれども、やってみることでどんどん世界が広がっていきんだと気が付きました。

神保さんは現役の選手を引退した後、海外の車椅子バスケットチームのコーチになり、世



界選手権で優勝を果たしました。

今もパラリンピックのサポートセンターで仕事をしたり、子供たちに車椅子バスケットを指導したり、スポーツ用の車椅子の開発をしたりしていらっしゃいます。そして、

各地で講演活動をなさっています。

「やってみること」そして新たなことを「知ること」これによって人生はどんどん変わっていきます。どんどんやってみて、知って、人生を切り拓いていって欲しいと話していらっしゃいました。

